

ワークショップ
「アニメーションのイメージとはなにか」
イントロダクション

2020年代における
アニメーション論の出発地点

日時 2019年7月13日(土) 14:00~17:30
場所 早稲田大学戸山キャンパス 34号館1階151教室

14:00~15:20

石岡良治 (早稲田大学准教授)

アニメを系列化していくことについて

15:30~16:50

高瀬康司 (Merca 主宰「マンガ・アニメ 3.0」編集長)

宮崎駿の時代、新海誠の時代

17:00~17:30 共同討議

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター「イメージ文化史」研究部門

共催：科研費基盤研究C(代表者：石岡良治)「日本のアニメーションおよび「アニメ」に関する理論的言説についての歴史的研究」(課題番号：19K00163)

来る2020年代へ向け、新時代のアニメーション論の、出発地点を確認するワークショップ。2019年に刊行された2冊のアニメーション論、高瀬康司(編)『アニメ制作者たちの方法——21世紀のアニメ表現論入門』(フィルムアート社)と石岡良治『現代アニメ「超」講義』(PLANETS)はそれぞれ、『AKIRA』(1988)と『デジモンアドベンチャー ぼくらのウォーゲーム』(2000)という、「平成」直前と「21世紀」直前の作品を出発地点に、現代までの日本アニメ史を辿った著作だ。今回のワークショップでは、それぞれの著者が、その内容を概説することでアニメーション論の現在地を確認するとともに、討議を通じてきたる2020年代のアニメーション論を模索する。